

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
会議名 (審議会等名)	令和元度 第2回 嬉野市総合戦略推進委員会		
開催日時	令和2年1月16日(木) 14:00~17:05		
開催場所	嬉野市役所塩田庁舎3階 3-2会議室		
会議の公開の可否	☑ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	戸田委員、副島委員、鵜池委員、西川委員、白濱委員、	
	事務局	総合戦略推進部長(池田)、企画政策課長(三根)、 企画政策課副課長(松本)	
	その他	なし	
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期総合戦略策定の考え方 ・ 第1期総合戦略のKPI等達成状況及び効果検証シート ・ 第2期総合戦略(案) 		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
議 題	1 次期嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の考え方 2 第1期総合戦略における KPI 等の達成進捗状況及び事業の効果検証 3 第2期嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）の検討		
内 容	次期総合戦略策定の考え方を提示し、戦略策定の流れ及び考え方を説明した後、第1期総合戦略効果検証シートにより、基本目標ごとに第1期総合戦略の総合的な KPI 等達成状況及び事業の効果検証を行う。また、それを踏まえ第2期総合戦略（案）について内容説明し、委員からの意見聴取と内容検討を行った。		
審議経過	委員長	第1期分の効果検証と第2期分（案）の検討を別々に行わず、基本目標ごとに第1期分の総合的なKPI等達成状況及び事業の効果検証を行うとともに、それを踏まえた第2期分（案）の意見聴取と内容検討の方が、委員会進行がスムーズで理解しやすいと思うがどうか。	
	委員	【委員全員異議なし】 基本目標① 嬉野市に住みたい・行きたい“ひと”の流れをつくる	
	委員	移住・定住支援の分野で、第1期時の事業効果検証の分析があったが、第2期（案）でも同じ目標設定になっている。実際、この状況を継続して改善することができるのか。また、同じ数値目標を設定すること自体が妥当なのか。	
	委員	移住世帯の目標設定について、目標に挙げるからには、今後、こういった施策をやっていくなどの裏づけが必要と思う。	
	事務局	第1期に関しては移住人数とし、今回第2期（案）は比較検討しやすいように移住世帯としています。 空き家バンク制度については、昨年度から空き家への移住を促すためのリフォーム補助を創設しました。昨年度の実績はありませんでしたが、今年度この補助事業を活用しての移住・転入も複数あり、また、空き家バンクへの登録者や登録物件も増えました。このように少しずつ動きがみられるようになってきているものもあります。	

		<p>第1期から達成できなかった数値目標を引き続き掲げている項目が他の分野にもありますが、今回第2期においては、達成できなかったからそのまま単純に同じ数値目標にするのではなく、新たな手立てを考えた上での数値としています。空き家対策については空き家バンクの充実、定住対策については定住奨励金の改革・拡充など、第2期時に数値目標を達成できるようにと考えています。</p>
委員		<p>そういった部分で目標値を裏づけしているということですね。</p>
事務局		<p>はい。見た目は前回の数字と全く同じに見える部分もありますが、年間の目標や見込みを積算し、5年後にはこれくらいを目標に事業を推進していこうといった感じで数値を出しています。</p>
委員		<p>今後5年間、このような政策を実施していくという裏づけにあたる部分が具体的な施策に盛り込んであればいいと思います。</p>
事務局		<p>各担当課・担当者では、新たな施策や事業に関し具体的な考えをもっているものもありますが、行政では単年度の予算計上になり、現段階で細かく具体的な施策を示せない部分があることをご了承いただきたい。</p>
委員		<p>移住分野で、市が支援した移住者数と定住奨励制度による移住者数の2つに分けられているが、どちらも市が支援している制度なのに分けている理由は何ですか。</p>
事務局		<p>上の方は空き家バンク活用等による支援で、下の方はもともと持ち家奨励金を含めた定住支援ということで分けていました。来年度からは、一部条件に合致する転入に関しては、住宅取得せずとも支援が受けられる制度に拡充する予定です。</p>
委員		<p>賃貸の場合も活用できる制度ということですね。</p>
事務局		<p>そのように考えていますが、転入者すべてが該当するものではありません。細かい制度設計はこれから確定することになります。</p>
委員		<p>2つに分けると分かりにくいので、移住・定住に関する数を出していった方が分かりやすいのではないのでしょうか</p> <p>県の場合でいくと、県や市町の支援制度や相談に来られた方がどれだけ移住しているのかというバックデータを取ってカウントしている形です。嬉野市に移住するにあたって、県に相談に来られて県</p>

		<p>の移住制度を利用して嬉野市に移住された方も当然いらっしゃるはずですが。市が支援した移住世帯の中に県の分も入っていますか。</p>
事務局		<p>支援制度を活用した方のみの実績で、県の分は入っていません。</p>
委員		<p>市の分だけを入れるので数が少なく見えます。結局、移住・定住したい町の推進ということは、嬉野市にどれだけ移住してきたのかトータルに近い数字を持ってきた方が良いのではと思います。</p> <p>具体的な施策に県・関係機関等との連携による移住支援の取組みとしているので、県と一緒に取り組んでいる数として入れていいと思います。</p>
事務局		<p>はい。その辺をもう一度、精査したいと思います。</p>
委員		<p>観光客の誘致・推進のところで、観光売り上げを出してそれを目標にするのは考えられていませんか。</p>
事務局		<p>目標①「人の流れ」の部分ではないですが、産業振興の②「しごと」の部分で、観光消費額を数値目標に掲げています。観光に特化した「市観光戦略」が地域DMOで作成されていますが、その中にも掲げられています。本当は観光消費額の方が大事かもしれません。観光客数が伸びるだけでなく、観光消費額が伸びてこそ、地域が潤い活性化につながると思います。</p>
委員		<p>景観を保全していくということも今後大切になってくると思います。新幹線駅の開業などで新しい街づくりが進められていますが、街の残していくべき変わらなくていいものもあると思います。</p>
事務局		<p>数値目標としては出しにくいものではありますが、項目ごとに残していくべきものとして、郷土芸能の継承など今回新たに加えたものもあります。景観の保全は、間接的にはそこを充実させて人口増加につなげることができ、全く無関係ではありませんが、総合戦略では、直接的に人口減に対応する施策や数値目標、そのために行う具体的な事業を掲げていますので項目に掲げていませんでした。</p>
委員		<p>できれば明文化して景観保全の推進に向けての取組みをいただければと思います。</p>
委員		<p>嬉野の景観保全ですね。嬉野の町並みは観光資源にもなります。それをSNSに上げるだけでも効果があると思います。</p>

事務局	はい。その辺も検討したいと思います。
委員	全体的なことですが、数値目標が累計表示となっているものは、これまでの事業実績等のトータルとしての累計か、それとも目標値でいけばR2～6年度までの累計かがわかりにくいと思います。基準値の方はH27～30年度までの累計と理解してよいですか。
事務局	現時点の表示は、もともとは第1期の基準値（H26年度）が0で、H30年度実績が10、R6年度目標値が20だとしたら、その20は、H26からのトータル累計を意味しています。
委員	H30年と表記するより何年から何年の間の累計と表記したほうがわかりやすいのではないかと思います。ただネックなのは、現時点では第1期期間中のH27～R1の5年間累計がまだ示せず、第1期、2期での5年間比較ができないことです。いずれにしても第2期の累計と明確にすることが大事です。
事務局	確かにH30年度実績を含む累計なのか、R2～6年度の累計なのか分かりにくくなっています。事務局としても迷う部分がありました。
委員	累計の場合が分かるような工夫をお願いします。
事務局	はい。基準値の数値の下に何年度から何年度までかといった表記の形にしたいと思います。目標も何年度から何年度まででこの数値ですよという表記にしようと思います。
委員	ボッチャに関する部分の表現が変わっています。競技人口と競技参加人数は違うのですか。
事務局	ニュアンスですが、競技人口は熱心に自分の趣味やマイスポーツとして競技する人を指すように感じられるため、まずはボッチャを広く知ってもらおう意味で、地域でやっている大会やイベント等の参加者という意味合いで表現を競技参加者と変更しました。
委員	これは新規で参加した方の人数になりますか。
事務局	新規だけでなく、毎年参加されている方も入っています。
委員	指す内容は変わっていない。専門的な競技でなく、レクリエーション的なものも含む表現ということですね。

事務局	はい。そのように解釈いただいて結構です。
委員	ふるさと教育のアンケートの結果ですが、アンケート結果が出る前から目標値を出すのは如何なものかと思えます。
事務局	修正版では目標値を空欄としています。結果数値が月末には出ますので、それを基に基準値及び目標値を記載する予定です。今の時点ではデータがないということでご理解ください。
委員	本市に住みたい・貢献したいという数値が上がってほしいですね。
事務局	高校にアンケートをお願いしに行った時に、多くの求人が出ていました。塩田工業は就職率100%で、1人に数十社の求人が来ると言う状況です。市内に仕事の数も少ないので、市内に残ってもらえる生徒さんも少ないのかなと考えています。
委員	企業の就職説明会に行きましたが、企業の人材担当者の前に行列ができていました。
事務局	以前、嬉野市が消滅可能性都市に選ばれてしまった理由のひとつに、戻ってくる女性の数が他市町と比べて少ないことがあります。そこを何とか改善するよう、嬉野市に戻ってくる仕組みを作らなければいけません。
委員	会社でも女性が結婚を機に市外に出られる方も多いです。
委員	基本目標①の人口社会増減の目標値が5年間で△500というのは、第1期でも年間△99人となっていた。この根拠としては何ですか。
事務局	年間△100人を目標に今の人口減を鈍化させていきたいと考えています。年間で△200人の年度もあり、年度別の変動も大きいですが、近年で減が少なかった年と同等・維持していくような目標数値としています。
委員	これについてのこの5年間の分析はできていますか。
事務局	減少が少なかった年度で△100人弱の年度もありますが、何かの要因でといったように明確な分析結果は得られていません。

		<p>基本目標② 嬉野市で働きたい“しごと”をつくる</p>
委員		<p>うれしのブランドづくりと稼ぐ農業の推進の部分で、数値目標の酒造用米作付面積ですが、第1期時から変更されています。山田錦に限定されたということですか。</p>
事務局		<p>はい。担当課との策定ヒアリングの中で山田錦限定でとなり、今回そこに特化した数値目標としました。</p>
委員		<p>数値カウントの仕方について、第1期と同様に累計ですか、年度ごとにするのか、そのあたりどうでしょうか。</p>
事務局		<p>これは毎年度作っている作付面積数が出せると思いますので、その年度の実績と考えています。</p>
委員		<p>新しいブランド野菜として、今回目標値を8とし、5作目増やすということですが、具体的に決まっていますか。</p>
事務局		<p>いろいろ試しながらということがあると思います。一概に全ての作物が同レベルで認知度アップや作付面積の増大にはつながらないかもしれません。具体的な作目候補は検討されていると思いますが、すべて決定しているものではありません。</p>
委員		<p>ブランド化するのは簡単ですか。</p>
事務局		<p>何をもってブランド確立か明確ではないと思いますが、難しいと思います。</p>
委員		<p>例えば、地場産の昔から作られているものや佐賀牛など知名度のあるものであれば、地場産ブランドといえると思います。ブランド化するには、温泉湯豆腐など嬉野ならではのものやここでしか取れないものとかの特殊性が必要と思います。また、作付面積や生産量が九州一などであれば、1つのブランドになってくるのではと思います。</p>
委員		<p>ブランド化に認定基準はありますか。</p>
事務局		<p>一般的には特に認定基準はないと思います。</p>

委員	進むべき方向としては間違っていないと思いますが、ブランド作目にカウントするのはハードルが高そうですね。
事務局	一定の認知を得るブランド化となるとかなりハードルが高いと思います。要は嬉野で普及しやすいこと、休耕地等でも栽培できる作など作りやすいことを嬉野市で推進していった、ゆくゆくはブランド化になるものもあるかと思います。
委員	嬉野ブランドになるかもしれない野菜の目標設定ということで理解していいですね。
委員	例えば、検証シートにあったほうずきでも、大分で東京から地域おこし協力隊でやってきた方が作って儲かっているという事例もあるようです。儲ければ別にブランド化しなくても良い場合もありますし、ブランドの定義自体が難しいですね。
委員	ブランド化というのは、認定基準もないので難しいと思います。作り方や特殊な肥料を使って美味しいものができれば、それが嬉野ブランドです。人気が出たということであればブランドとして、私はいいと思います。
委員	ブランドの作物数が増えることよりも、稼げるような品目が出てくるのが重要だと思います。
	<p>基本目標③ 嬉野市で結婚・出産・子育てしたい“まち”をつくる</p>
委員	今回、婚姻数を目標数値としていますが、これまでの推移はありますか。
事務局	<p>婚姻数としては、合併当初の平成18年から25年ごろまでが130から150組程度で、平成20年代後半には110組程度で推移しており、相対的に人口減に伴って婚姻数も減少している状況です。</p> <p>嬉野市内の男性が他市町の女性と知り合い結婚され嬉野市に住むケースも多いと思いますし、嬉野市内に若い女性が少ないから市内の婚姻数が少ないとは限りませんが、数値としては若い女性が少ないことが婚姻数の減少にもつながっていると思います。</p>
委員	1万人当たりの婚姻数などでいくと、嬉野市は全国平均より低いですか。

事務局	<p>婚姻率は手元にありません。全国の生涯未婚率とういのがありますが、嬉野市は男性の生涯未婚率が全国平均より高いです。女性は逆に全国平均より低いです。</p>
委員	<p>うちの会社でも40代、50代の男性の未婚者が5人もいます。逆に20代、30代の若い男性はほとんど結婚しています。結婚相談所では登録できる年齢の上限はありますか。</p>
委員	<p>結婚相談所でそれぞれ違うと思いますが、最近シニア層で終活に向けて結婚したいという人が増えているそうです。結婚相談所も稼がないといけないので、ニーズからすると特段年齢制限などを設けている結婚相談所は少ないのかなと思います。</p>
事務局	<p>市や県などで助成を活用して行っている婚活事業では、農業後継者に特化しているものなどは、ある程度年齢制限や地域を設けているものもあります。</p>
委員	<p>補助事業や県や行政でやる婚活事業は、結婚の結果家族が増えて、出生をイメージすると、そこに対応できる年齢層にある程度限定されていることもあると思います。</p>
委員	<p>未婚率のデータは個人のデータなので人口に関係するのは分かりませんが、婚姻数は組なので嬉野市のデータと直接関係するのですか。 嬉野市在住同士で結婚して婚姻数の増なら分かりませんが、嬉野市同士でない方も多いので、この婚姻数を目標値とするのはどうですか。結婚サポートの支援事業を使った人数であるなら分かりませんが。</p>
委員	<p>婚姻支援の事業を使えるのは、嬉野市民の方のみですか。</p>
事務局	<p>他市町と合同で実施する事業もあります。婚姻数は嬉野市に婚姻届を提出された届出数になります。</p>
委員	<p>婚姻届は居住地でなくてもいいですよ。そのうち嬉野市民がどれくらいいらっしゃるのかということですよ。 例えば佐賀市の方が茶畑で結婚式したいから、嬉野市に結婚届を出すということもありえますよ。外で働いている人同士であれば、近くの市役所に出すという場合もあると思います。</p>
事務局	<p>今回婚姻数を指標とし、基準値を109組から目標値を5年間累計600組としています。婚姻数は婚姻届数なので、ほぼ嬉野在住か嬉</p>

		野に住む意思のある人だと思います。指標として適当かは再度検討します。
委員		109組のうちほぼ嬉野市民だろうということで、指数としては妥当であるということですね。
事務局		嬉野市への婚姻届提出者は、数字が夫婦両方またはどちらかが市民でかつ嬉野に在住する方たちだと思います。
委員		結婚のタイミングが居住地決定のタイミングでもあると思います。
事務局		例えば、嬉野市の女性が武雄市の男性と結婚して、武雄市に転出する場合、結婚届は嬉野市に入っていないと思います。中身がどういった状況か分析する必要があります。
委員		嬉野における結婚が増えればよいということですね。
事務局		以前は合計特殊出生率を指標としていましたが、統計の関係でそのデータでの効果検証ができないため婚姻数としています。
委員		1、2件程度が全くの市外関係だったとしたら咎める必要はないと思います。
事務局		嬉野市民のみのデータを抽出するのは可能だと思います。
委員		住民票を移していないけど嬉野市に住んでいる方もいると思います。婚姻届を嬉野市に出しているけど、住所は前の居住地のままである場合もあります。
事務局		その方々がどのくらいいるかです。私の考えでは嬉野市に住みたい・住もうとしている人が結婚届を出しているという認識でした。この件については確認します。
委員		例えば、5年前の第1期の他市の婚姻数の指標はどうなのか。
事務局		第1期は人口ビジョンが基礎になって総合戦略を作成しました。人口ビジョンの基礎となっているのが合計特殊出生率です。この数値をどう変えるかで、将来の人口が大きく左右されます。ここを外していいものかということがあります。

委員	その趣旨からいくと、本当は合計特殊出生率が出る方がよいと思います。
事務局	<p>今公表されているのが平成20～24年のデータです。平成25～29年のデータが去年度公表予定でしたが、統計の問題があって今現在も公表されていません。前回、県データに準拠した形で同じ数字を使い1.64としました。</p> <p>合計特殊出生率を指標にすると、現時点で最新の基準値は出せず、また、最終の5年後にデータ公表されないため効果検証できない。これでは指標として使えないということで変更したところです。</p>
委員	最新ではないということですね。
事務局	はい。そういうことになります。
委員	<p>KPIの「男は仕事、女は家庭」という考えに反対する市民の割合という項目は引き続き指標としますか。もちろん、考え方から始めていかなければいけないのは分かりますが、実質、この考え方には反対だが行動が伴っていない方がかなりいると思います。</p> <p>指標としては、考え方よりもきっちり動いているかどうかの方が大事だと思います。アンケートの結果、男性の子育て参加がどれくらい増えているのかといった指標を出すことは検討できないですか。そもそも、この考え方自体、今の時代に合っているのかと思います。</p>
事務局	育児休暇の取得率を出していく等ですね。
委員	男性がきちんと子育て環境に携わっていますというような指標を掲げた方がいいと思います。
事務局	担当者とのヒアリング時には変更も検討しましたが、国のほうでも定番の項目でありそのままとしています。ご意見もいただきましたので再度検討します。実際家事・育児に参加している男性の割合などを項目に入れるべきですね。
委員	不育症治療費助成件数はKPIとして残しておいたほうがいいですか。第1期で0だったものを再度項目として残しておいくのがどうかと思います。
事務局	不育症治療助成は、第1期時に先進的な取り組み項目として入れていました。実際、現時点で活用が0で、今後利用があったとしても、絶

	<p>対数や助成の要件・限度もあり、飛躍的に上昇する項目ではないと考えられます。再度、数値目標として適当か検討します。</p>
委員	<p>助成制度が不要ということではなく、指標として0のものはもう外してもいいのではと思います。</p>
事務局	<p>市が先進的事業としてやってきましたが、他の機関でも保険適用になってきている部分あり、今後、事業推進していくのかどうかを担当課とも検討します。</p> <p>基本目標④ 嬉野市で安心して暮らしたい“地域”をつくる</p>
委員	<p>交通事故発生件数の目標値が、基準値より大きいというのはおかしいと思います。交通事故件数が基準値より多くてもかまわないととれる目標値となっている。</p>
事務局	<p>前の項目のファミリーサポートセンター事業も基準値（実績値）が239で目標値が200となっている。このように数値が逆転している項目については、担当課へ修正・変更を促します。また、たまたま基準年度だけ数値が突出している項目については、数年の平均値を基準値にするなどを検討します。</p> <p>このようになっている理由のひとつに、総合戦略とは別に各分野における個別計画に大きく数値目標を掲げているものも多く、これと整合性を取りたいということもあります。。</p>
委員	<p>目標値は譲れないにしても、基準値から数値が悪くなる目標値であることは、特に交通事故の件数に関してはよくないと思います。</p>
事務局	<p>交通事故件数を確認したところ、前年も120件程でした。個別計画自体を見直すべきかもしれません。</p>
委員	<p>逆に見直す事をタイミングと捉えてそちらを見直すのがよいかもしれません。</p> <p>特定保険指導受診率もそうですね。受診があった方がよいのか、減るほうがよいのかどちらでしょうね。</p>
事務局	<p>これは全国的にも60%が目標値となっているようです。</p>
委員	<p>これは不健康な人で指摘を受けた人の受診率ですよ。</p>

委員	指導対象者は減ったほうがよいですが、指導対象者に対しての受診率は上げていかないといけないということですね。
事務局	はい。これは数値が高い方がよいです。国が基準にしている数値ですが、嬉野市も独自に60%を超えているなら目標値を70%に上げるなどしてもいいのかなと思います。
委員	ケーブルテレビ等の情報発信を強化して受診の推進をしてほしいと思います。
委員	数値目標の地域コミュニティ事業への住民参加数はどのようにカウントされているのですか。
事務局	担当課は企画政策課になりますが、各地域コミュニティ事業について様々な事業報告が上がってきますので、そちらでカウントしています。
委員	各事業において報告があった数の積算ですね。
事務局	はい。基本的にはそうです。
委員	全ての人数がカウントされていますか。
事務局	2018年度の数値は細かい数字であるので、事業ごとの数値を積算しているはずですが。
委員	地域のイベントやお祭り等の来場者等は、カウントするのが難しいですか。数値目標としている主旨としては筋が通っていますが、数値としてはこれが目標値というのは心配な感じもします。
事務局	担当へも確認し検討します。
	分野横断的取組
委員	分野横断的な目標ですか。分野横断的な取組みですか。4つの基本目標を横断するような目標ですか。 例えば、いろいろな情報発信をすることによって、人の流れや仕事を創出するということですか。この横断的な3つの項目がどう位置づけられますか。

	事務局	<p>国の第2期総合戦略は、第1期での4つ基本目標を柱に事業等を継続・強化させつつ、プラスして新たな視点にも取り組むこととしています。それが2つ目、3つ目の項目の人材と新しい流れの部分です。</p> <p>嬉野市ではそれに、情報発信やシティプロモーションを積極的に進めたいということで1つ目の項目に掲げました。</p>
	委員	<p>それでは分野横断的な取組みということですね。</p>
	委員	<p>分野横断的取組みと分野横断的目標という2つの表現があるのでわかりにくいですね。</p>
	委員	<p>目標はあくまでこの4つの基本目標で、分野横断的な部分は目指すところ（目標）ではなく、掲げていることやものを使って推進していくということですね。</p>
	事務局	<p>総合戦略（案）を策定する段階で国の総合戦略を参考にしましたが、この中には横断的な目標として掲げられていましたので、そのまま採用した形です。ご意見のとおり、ここは分野横断的な取組みとしたほうがよいように思いますのでそのように変更します。</p> <p>また、現時点ではこの分野横断的取組みが戦略の最後に記されていますが、冒頭の本戦略の体系の部分にもってくるほうがよいように思います。如何でしょうか。</p>
	委員	<p>分野横断的取組みの①、②、③の内容が最後を見ないと分からないので、最初の方に、政策の基本目標および分野横断的取組みの項目があるので、その次にもってきたらどうかと思います。</p>
	事務局	<p>今回、第2期総合戦略の目玉として、新しい視点の分野横断的取組み③のSociety5.0とSDGsがそのひとつとなります。</p>
	委員	<p>本当であれば、分野横断的取組みの具体的なものを基本目標の中に散りばめさせるほうが良いと思います。それぞれの基本目標の中にあると、より横断的であることがわかりやすくなると思います。</p> <p>例えば、シティプロモーションや多様な人材の活用は、4つの目標を進めていく上で、何に関わっていくのかこれには記載されていません。それを入れる方がいいと思います。</p>
	事務局	<p>すべての目標に関わる横断的取組みとしていますが、具体的な施策にはめ込めていないところもあります。</p>

	<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>シティプロモーションは、新幹線開業やふるさと納税のところで触れているように、人材活躍や新しい流れの取組みについても、各基本目標の具体的な施策の中で触れておくべきと思います。横断的取組みならばどう横断的なのかということを確認するべきと思います。</p> <p>シティプロモーションの情報発信の部分はある程度すべての基本目標の具体的な施策の中に盛り込んでいますが、Society5.0とSDGsなどについては、まだ手を付けていない分野がかなりあります。</p> <p>横断的としているのは、今後、深く関わってくるだろうという考えで記載をしています。現状では、横断的取組みとしてすべての基本目標に具体的にはめ込むのは難しいです。</p> <p>横断的取組みについては、大きく掲げているだけということになりますね。第2期を進めていく上で、都度追加していくという考えでいいですか。</p> <p>ご意見のとおり、横断的取組みとして掲げているが、現時点で、すべての基本目標に落とし込めていないというのはあります。今後そういった広がりが出てくるので、全ての分野に関わりの可能性があるということで分野横断的取組みとしています。</p> <p>もう一度、事務局でも検討しどうするかを提案します。</p> <p>その他</p> <p>1/27の臨時議会時に市議会議員さんからも本総合戦略（案）への意見をもらって、市民へのパブリックコメント意見も含め、次の推進委員会に向けて総合戦略（案）を固めたいと思います。</p> <p>その推進委員会では、どんな意見が出てどう修正したか等、最終的な総合戦略（案）をご提示したいと思います。</p> <p>開催日は、2/13の午後を予定していますのでよろしくお願いいたします。それを受けて3月の市議会で提案する予定です。</p> <p>長時間にわたりご協議いただき誠にありがとうございました。 これを持ちまして第2回総合戦略推進委員会を終了いたします。</p>
その他	なし	